

## // 卷 頭 言 //

視覚障害リハビリテーションセンター  
所 長 津 田 諭

視覚障害者が求めているサービスとは何だろうか。当センターでもさまざまなニーズに応えるべく努力しているが、人的・財政的な制約もある中で、どうすればよいサービスが提供できるか、日々思い悩んでいる。

そんな状況の中で、今年は当センターの視覚障害者に対するサービスをどのように展開していくべきか、考える上でのヒントを与えてくれる研修に参加させてもらうことができた。

まず、10月16日から10月18日に福井市で開催された全国盲重複障害者福祉施設研究大会。私どもも障害者支援施設「日本ライトハウスきらきら」で視覚障害者を主な対象とする入所型の生活介護を6月から開始したこともあり、盲重複障害者に対するサービスの先駆的施設（光道園、東京光の家など）のお話はどれも勉強になることばかりであった。当センターも盲重複障害者に対するサービスを続けていたが、平成21年4月に障害者自立支援法に移行した際に自立訓練（生活訓練）というサービスを選択し、2年間の利用期限がきてそのサービスの利用者は0となった。在籍されていた方の多くは地域生活へ移行され、中には引き続き、障害福祉サービス事業所「日本ライトハウスわくわく」（生活介護）を通所でご利用頂いている方もいる。しかし、他の入所施設を求めて光道園や洛西寮へ移られた方もいる。私は盲重研大会に初めて参加したこともあり、大会参加者の盲重複障害者福祉への熱意に圧倒された。改めて、盲重複障害者の生活を支えていく施設としての当センターの立ち位置を認識し直すよい機会となった。

大会の最終日には光道園の見学が行われた。福井市から光道園鯖江事業所までは大型バスで30分ほど揺られての移動であったが、私にとって初めての見学であり楽しみにしていた。視覚と知的、視覚と聴覚などの重複障害者に対する手厚いサービスを展開され、また平均工賃が12,000円という作業にたくさんの利用者が参加している現場を見学させて頂くと、創立者中道益平先生の「愛